

96**k tunes**
RACING

🇯🇵 M.NITTA 🇯🇵 Y.NAKAYAMA

Super GT 2018 Rd,7 AUTOPOLIS GT Report 2018/10/21

Final Day Summary

10番手からスタートしたK-tunes RC F GT3は、安定したペースでスタートドライバーの中山選手が40周まで引っ張りトップでピットインすると、メカニックの敏速な作業で新田選手を送り出し盤石の展開で今シーズン2勝目を達成。

Final Day

チャンピオンシップやポイントランキング争いが熾烈を極めている SUPER GT の終盤戦。残すところ2戦となった 第7戦の「2018 AUTOBACS SUPER GT Roud7 AUTOPOLIS GT 300km RACE」の決勝レースが 10月21日（日）に開催された。

レースウィークは標高 900mにあるオートポリスらしく、朝方は 10℃を切る寒さで日中に日差しが出ると気温は上昇するが、秋らしい気候の中で実施された。九州地方では唯一の大会ということで、21日は朝から多くの来場者がオートポリスを訪れていて、土日の2日間で3万930人の観客が総勢44台の SUPER GT マシンの白熱したバトルを見届けることになった。

21日のスケジュールは10時からのドライバー紹介でスタートし、11時から12時10分まではピットウォークが設けられていた。決勝レース前のウォームアップ走行は12時45分から20分間に亘って実施され、二人のドライバーが K-tunes RC F GT3 のステアリングを握り、合計8周を走行。計測結果は8番手だったが、決勝レースに向けて仕上がりの良さを見せていた。

決勝レースは予定通りの14時にパレードラップによって幕を切る。スタートドライバーを務めた中山雄一選手は、レース序盤から着実にポジションを上げていくことになった。



Final Day

10番手からスタートした K-tunes RC F GT3 は、1周目で早くも8番手となり、2周目にはベストタイムとなる1分47秒093をマークして先行車とのギャップを詰めていく。上位のマシンがピットに入ったことに加えて、7周目には競り合っていた87号車のランボルギーニをパスし6番手に浮上。その後は、先行車を抜きあげねてポジションをキープするが、トップ争いをする2台とは10秒以上の差をつけられてしまう。しかし、18周目に30号車のプリウスがコースオフしたためにセーフティカーが導入される。このセーフティカーランによってトップとの差がなくなり、23周目にレースがリスタート。上位陣はリスタート後の25周目を過ぎると徐々にピットに入りタイヤ交換と給油、ドライバー交代を行なう。そのため、27周目には2番手、32周目には K-tunes RC F GT3 はトップに立ちレースをリードすることになった。

K-tunes Racing LM corsa の戦略としては、前日の公式練習などでタイヤの摩耗が少ないと判断していたために、第1スティントを担当した中山選手をギリギリまで引っ張ることにしていた。中山選手は、チームの戦略を着実に実行するためにタイヤを労りながらも安定したラップタイムで走行を続け、トップに立つとチームからプッシュの指示が出る。すると、1分47秒台にラップタイムを上げて40周目にピットに戻る。ピットインのタイミングを引っ張ったために給油時間も短縮することができ、チームの敏速な作業も功を奏して、2番手で新田守男選手をコースに復帰させた。トップを走っていたのは、まだピットインを終えてないマシンで、K-tunes RC F GT3 は実質的にレースをリードする。しかも後続に15秒ものマージンを築いて後半のスティントを走行することになった。

前半のスティントと同様にタイヤのピックアップに悩まされることになったが、それでも新田選手は1分47秒台から48秒台のラップタイムで走行を続け、2番手とのギャップを徐々に広げていき、61周目に見事にトップでチェッカーを受けた。

今シーズンから LM corsa とタッグを組み SUPER GT に初参戦した「K-tunes Racing LM corsa」は、初年度ながらもシーズン2勝目を獲得。この勝利によって新田選手は、再びGT300クラスの最多勝に並ぶ記念すべき20勝を達成した。

第3戦の初優勝以降は波に乗れない戦いが続いたが、チームとメカニックは懸命な作業とピットインの訓練などを続けていて、チーム一丸で2回目の優勝を勝ち取った。



Team Comment



Director : 影山 正彦

昨日の予選のときから決勝のラップタイムは安定して走れる自信がありました。展開次第では表彰台と思っていたのですが、優勝できて本当に嬉しいです。ドライバーを筆頭にチーム全員が力を集結して成し遂げた勝利だと感じています。応援していただいた関係者やファンなどすべての方々に感謝しています。レース展開は、中山選手が周回数の2/3まで引っ張ってくれて、ピットワークもミスなく新田選手にバトンを繋ぐことができました。第2スティントもミスなく安定したペースで走ってくれて、後続に17秒のリードで勝てたことも自信になります。シーズン2勝目を挙げたことで、最終戦に向けて士気も上がりました。次戦のツインリンクもてぎでは、シーズンの良い締めくくりをしたいです



Driver : 新田 守男

予選の展開からすると表彰台はありそうだと思っていましたが、勝てるとは思っていませんでした。チーム力で勝ち取った2勝目だと感じています。第2スティントを担当したのですが、素晴らしいピットワークでコースに送り出してくれたので、リードを保つことに全力を注ぎました。数周するとピックアップによってラップタイムが落ちたのですが、それでもライバル勢よりも速く走っているとされたこともあり、安心して走れました。今シーズン2勝目を挙げる事ができたので、最終戦も期待したいです。



Driver : 中山 雄一

予選では路面コンディションとタイヤが合っていなかったため、本来のパフォーマンスを発揮できませんでした。それでも決勝レースでは選択したタイヤや戦略がすべて合致したことで優勝できました。最善の戦略を考えてくれたチームや、素晴らしいマシンを仕立ててくれ敏速なピット作業を行なってくれたメカニックに勝利で恩返しができることが嬉しいです。レースの序盤は先行車につまっていたのですが、セーフティカー明けからプッシュしてリードを築くことができました。そのリードを新田選手がしっかりと守ってくれたお陰で勝つことができました。

2018年スーパーGT レーススケジュール

▶ 11.10-11 Round.8 MOTEGI